

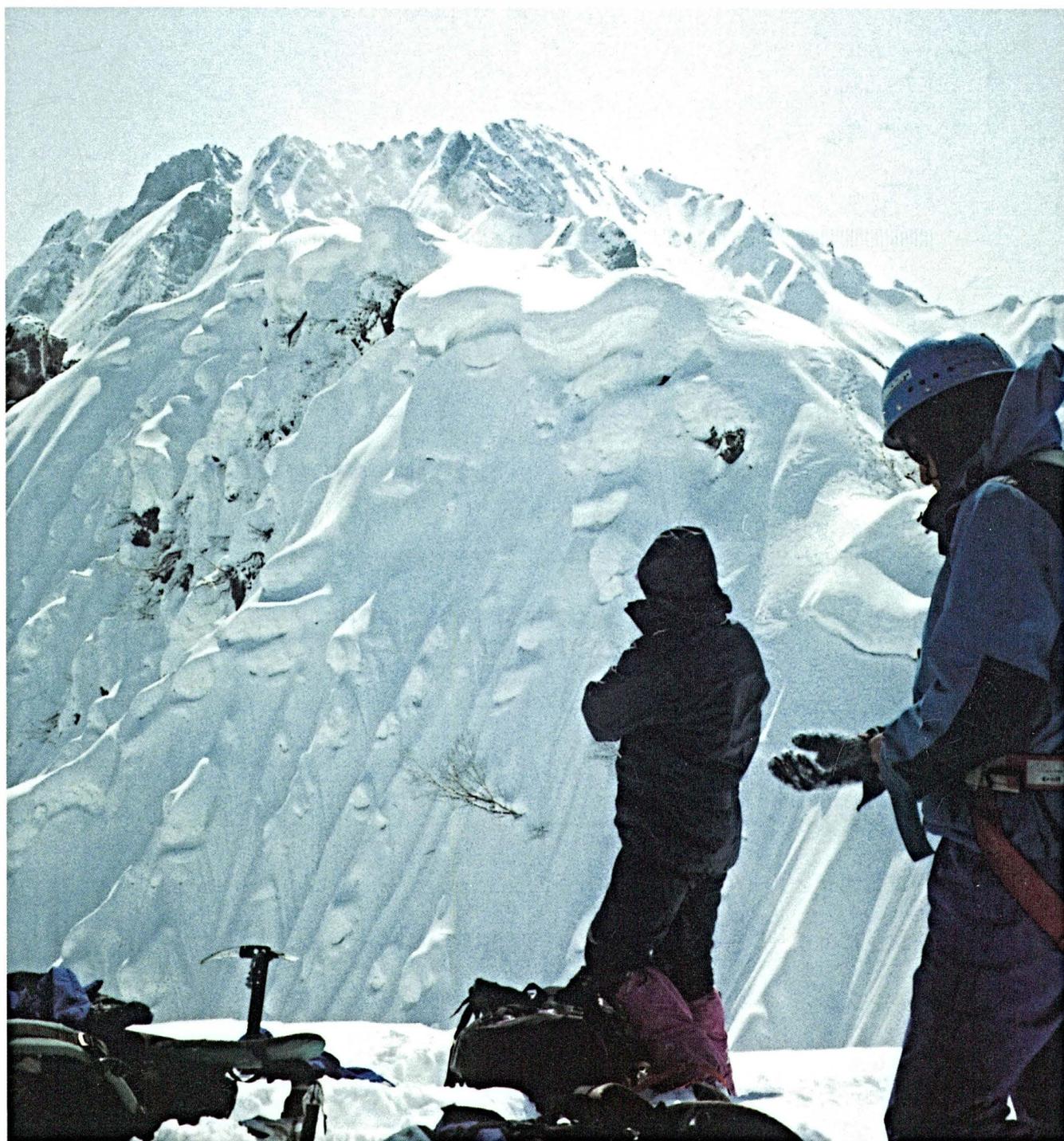
# 学園ニュース

富山大学

NO.78

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学学生部

平成4年11月30日



剱岳登頂を目指す山岳部員

(写真提供：山岳部)

目 次

バブル消えて思うこと .....	経済学部長 吉原節夫 .....	1	
新任教官紹介及び挨拶 .....		2	
一番古い新しい大学 .....	理学部助手 阿部幸隆 .....	4	
維管束植物の遺伝子発現機構の 解析のための基礎的研究 .....	理学部教授 菅井道三 .....	6	
留学感想 .....	外国人留学生（大学院工学研究科1年）任 教育学部小学校教員養成課程4年 種	伶伶 .....	8
		由喜子	
トピックス .....			11
学生サークル紹介 .....			13
学生部だより .....			15
保健管理センターだより .....			17
卒業生だより .....	昭和37年 文理学部理学科卒	宮本啓宇 .....	18
ヘルン文庫 .....	人文学部教授 平田純 .....		19

## バブル消えて思うこと

経済学部長 **吉原節夫**

バブル経済が崩壊して、その後遺症がいろいろなところで出てきた。第一に、銀行等が抱える莫大な不良債権。第二に、倒産の急増。第三に、学生の就職戦線における急変。これらについて少し見てみよう。

銀行等の不良債権（6カ月以上利息の支払いが滞っている貸金債権）について、10月末に大蔵大臣が記者会見し、都市銀行ほか主要銀行が抱えている不良債権は総額12兆3000億円になっていると発表した。これだけでもびっくりする金額であるのに、一部金融界の試算によると不良債権の総額は30兆円位であるとさえ聞かされる。余りにも金額が多く、このツケは最後にどうなっていくのか大変気にかかる。

つぎに、倒産の方は、証券・不動産関係に止まらず各業種にわたって企業倒産が急増し、1月から10月までの倒産件数が11,385件。そのうち、バブル経済の崩壊の影響によるとされるものが、10月だけでも111件、負債総額2268億円に上っている。他方、個人破産の急増も社会問題化しており、破産に至らないまでも多重債務を抱えて支払不能に陥っている個人は50万人を超えているともいわれている。

一体、どうしてこうなったのか。金融機関の不良債権の膨張は、バブル時代に「不動産や株の担保さえあればよい」という安易な過剰融資のツケが回ったといえる。金融機関は競って貸出しにルーズになり、例えば、1億円の土地を担保にして7000万円前後しか貸さなかった従来の方針を変え、10割評価して1億円を貸したり、時にはその土地の値上りを予想して1億2000万円も貸すことがあったという。担保の土地や株が値下りして6000万円になると、貸金に対して担保不足となる。このような過剰融資が、不動産・株式相場の下落によって手痛い目に合っている。また、大手企業も、バブル時代の設備投資や大量採用で膨らんだ固定費

の増加によって収益が悪化した。全体として厳しい景気後退となり、学生の就職戦線が一変し超売り手市場が一斉に影をひそめた。企業内失業者が大量にいる現在、いわゆるフリーターにも冬の時代が到来した。

個人破産の多くは、クレジットカードの多用によるもの、バブル的消費生活がもたらしたものといえる。カードによるキャッシングで数百万円の借金に押しつぶされた例など珍しくない。「バブルに浮かれ、過度の消費ブームが起きた結果、学生までカード破産している。」と日銀総裁がT大学で講演していた。

こう見てくると、バブルに浮いた企業も個人も、いかに流行やムードに弱かったかがわかる。そして、バブルによる虚像の経済現象しか見ていなかったともいえる。本来あるべき姿を見失って、かなりの企業が良い製品を生産・販売して成績を上げるよりは株や不動産に入り込むなど財テクに走り、サラリーマン・OL・主婦さえ投機取引をしたり、自分の返済能力を忘れてテレビや折込みの宣伝に踊らされ、多額の債務を負ったりした。顧客の所得規模が限られているのに信用供与する業者の姿勢も問題である。多重に借り受ける風潮が、借主の倒産を招くリスクをますます増大する。関係者は、この点をどのように分析していたのか。バブル時代に主婦向け講座等において株や不動産の購買をアドバイスしていた経済評論家やコンサルタントに経済理論があったのかと問いたい。臆面もなく今でもテレビでゲスト・コメンテーターになっている「経済評論家」の軽薄さにあきれる。

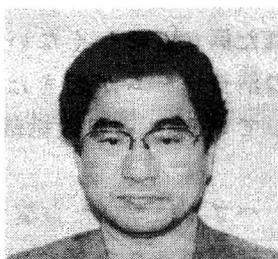
これらを総じて思うことは、物事を表面的・一面的にしか見ない傾向、換言すれば、「掘り下げで考え構造的・総合的に把握する」ことをしないという傾向が、余りにも横行していることである。バブル消えて大きな教訓が残ったと言うべきであろう。

## 新任教官紹介

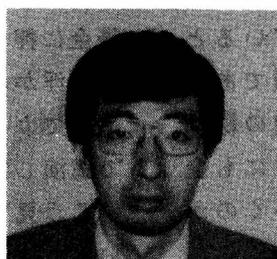
○ 竹 浪 聰 教授（教育学部） 4.10.1  
昭49.3 東北大学大学院文学研究科  
博士課程中退  
担当：国語学

○ 伊 藤 美重子 助教授（教養部） 3.10.1  
昭56.3 お茶の水女子大学大学院文学  
研究科修士課程修了  
担当：中国語

○ 田 原 稔 助手（工学部） 4.9.1  
昭58.3 山形大学大学院工学研究科  
修士課程修了  
担当：知識情報工学



教育学部 教授  
竹 浪 聰



工学部 助手  
田 原 稔



教養部 助教授  
伊 藤 美重子

## 新任の御挨拶

教育学部教授 <sup>たけ</sup>竹 <sup>なみ</sup>浪 <sup>さとし</sup>聰

10月1日付けで岩手大学人文社会科学部から本学教育学部（国語科）に配置換えになりました。

郷里の北海道木古内（きこない）町を振り出しに、私の双六は、ようやくこの地に辿り着きました。これをもって「あがり」としたいものです。

富山は、友人の結婚披露宴で来たとか、忘年会で宇奈月温泉に泊まったとかいうことがある程度で、ほとんど初めての土地です。『平家物語』に見える俱利伽羅山、落人伝説の五箇山、越中富山の反魂丹、ホタルイカ、黒部峡谷、北アルプス…。

水が良くて米がうまい、と聞いています。当然、酒もうまいのがあるはず。あれこれ楽しみが多くて勉強が疎かになりそうです。気を引き締めるべく、国語学の大先達・山田孝雄先生のお墓参りをしなければ、と考えています。

専門は国語学。漢字と出会うことにより、日本語の中にはさまざまな現象が生じました。その多様なあり方に興味を持っています。本年度後期、国語学概論で文字論、同各論で語史研究、同演習では中世語研究を課題としています。

工学部助手 田原 稔

平成4年9月1日付けで、電子情報工学科、知識情報第Ⅱ講座に助手として着任しました。

出身は隣の新潟県上越市で、山形大学電子工学科の修士課程を修了した後、東京にある民間企業に勤めまして、主に、業務用ビデオカメラ及びその周辺機器の電気回路設計を行っていました。同軸線路一本だけで複数の映像信号や音声信号などの長距離伝送（1km程度）を考えたときには、送信側では各々の信号を異なった周波数で変調しそれらを多重した信号を送り、受信側ではそれぞれの周波数に分割し復調して元の信号に戻す、という方式がありますが、私はこの方式を用いた商品の回路設計を行っていました。

このような商品は放送局用、業務用として用いられており、特にテレビのゴルフ中継などでは長距離の伝送が必要なために頻繁に使われています。

また、こちらに来ましても西塚教授のもとで、伝送理論における分布定数回路論に基づく結合線路形変成器やパルストランスの周波数・パルス応答波形などを解析していきたいと考えています。

富山県には小学校の修学旅行と中学校の立山登山でしか来たことがなく、それほど深くは知りませんでしたが、住んでみると窓からの立山連峰の眺めの良さやおいしい魚などを始めとする豊富な自然の中での生活に大変満足しております。

さっそくこの10月からは2年生の学生実験を担当していますが、初めて教える立場となりました。今までにない責任を感じております。電子情報工学科での活動を通じまして富山大学のために微力ではありますがお手伝いさせて頂きたいと存じます。どうぞ、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

教養部助教授 伊藤 美重子

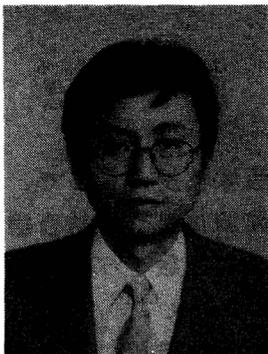
平成4年10月1日付けで、教養部の中国語教官として着任しました。どうぞよろしくお願い致します。

出身は東京都で、この10月に富山に移るまで、生まれてこのかたずっと東京で暮らしてきました。今、部屋のベランダから神通川の流れと立山連峰を眺めながら、東京のあの満員電車の中でモノと化する生活から離れてホッとしているところです。

この九月までは、東京近辺のいくつかの大学で非常勤講師として中国語を教えてきました。中国語を教え始めて、かれこれ八年になります。この10月ようやく、何となくフワフワした生活からも開放されて、少しは落ち着いて勉強できる環境

になったことを有難く思っています。

授業では現代中国語を担当していますが、研究対象とするところは、中国の古典文学、主に唐代の俗文学で、中国甘肅省の敦煌莫高窟で発見された所謂「敦煌文書」を扱った調査研究を行っています。敦煌文書はほとんどが写本ですから、当時の人々の筆跡そのままの資料を見ながら、昔も今も人間の考えることなど大差ないのではないかと思います。これを書いた人はどんな人なのだろうか、どんな気持ちでいたのだろうかなどと、いろいろ想像しては楽しんでいます。この楽しみを成果として形にするのが、なかなか苦しいのですが、これから少しずつ形にできたらと思っています。



# 一番古い新しい大学

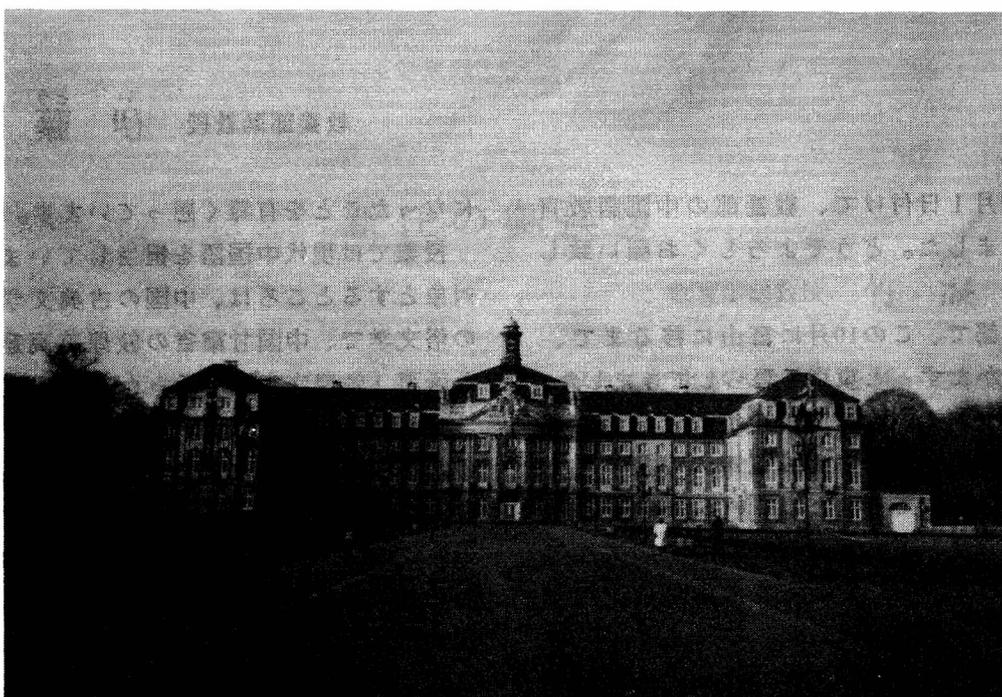
理学部助手 **あべ 幸隆**

「ボッフム大学が一番古い新しい大学です。」ボッフム中央駅に迎えに来てくれたハックルベリー教授は大学へ向かう車の中でこう言った。即座にはその意味がわからなかった。この妙な言い回しは、第二次世界大戦後に新設されたドイツの総合大学の中で一番古いという意味であるとハックルベリー教授は説明してくれた（この言い方が正しいかどうか私にはわかりませんが）。

ボッフム大学は市の中心から路面電車で20分ぐらいのところにある。回りには学生や研究者のアパートなど大学に関係したものがほとんどである。大学に隣接した大学センターに行けば、郵便局、

銀行、スーパーマーケット、デパートとなんでもあり、ほとんどの用は足りるのであるが、コンクリートむきだしの大学ともどもなんと殺風景に私の目には映った。

ドイツの伝統のある本当に古い大学は建物もお城が使われていたり、昔の偉大な学者が使っていた建物がそのまま使われていたりする。私はボッフムに来る前にドイツ語研修のため二ヶ月間ゲッチェンゲンに滞在した。その折に偶然街で出会った友人に誘われるままにゲッチェンゲン大学のセミナーに語学研修の合い間をみては出席した。そこはあの大数学者ガウスのいた大学であり、その当時の建物もそのまま使われていた。また現在談話室に

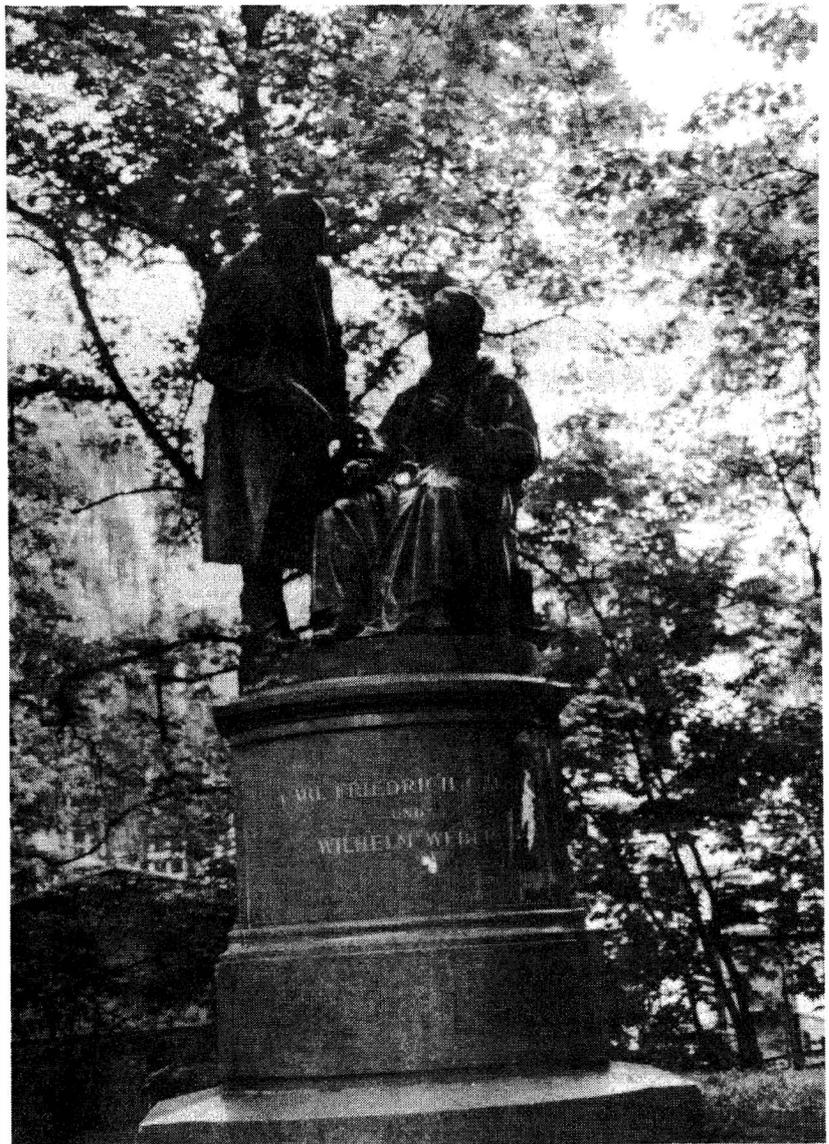


ミュンスター大学

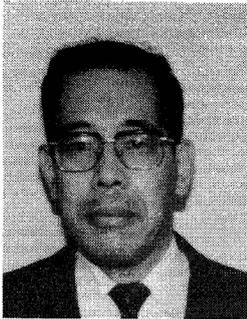
使用されている部屋は女性数学者ネーターが使用した部屋で“ネーター・ラウム”の名札がかけられていた。大学以外でもゲッチングンの街にはそこかしこに著名な学者ゆかりのものがある。

ポッフムはもともと炭坑の町であり、大学の歴史も浅いのでそうしたゆかりのものなどみあたらないのは当然であるが、逆に伝統によりかかることなくこれから自らの力で伸びていこうという雰囲気があった。ポッフム大学は多くの優秀なスタッフを集めて業績をあげ年々その評価が高まってきているという声も耳にした。

次に我々の研究グループのセミナーについて書くことにする。ハックルベリー教授の人柄や出身によるのかもしれないが（彼はアメリカから10年程前にポッフムに移った）、セミナーは実に伸び伸びとした活発なものであった。教授も学生も遠慮なく自由に質問や意見を述べていた。ハックルベリー教授はセミナー中ギャグを飛ばして皆を笑いの渦にまきこむことを得意としている。もちろんいつもギャグばかり飛ばしているわけではない。疑問点はどこん議論し、わからないことは初歩的なことでも平気で質問する。こうしてハックルベリー教授が率先して発言しやすい雰囲気づくりにつとめている感もある。私の専門は多変数関数論である。ポッフムのこのグループはドイツでのこの分野の活発な研究グループの一つである。かつてのこの分野の一つの中心地ミュンスターがポッフムの近くにあるが、今や立場は逆転している。各学期に一回のポッフムとミュンスターとの合同セミナーでもポッフム側からの講演が多かった。この発展しつつある“一番古い新しい大学”で研究生活をおくることができたことに感謝しつつそろそろ筆をおくこととしよう。



ガウスとウェーバー



## 維管束植物の遺伝子発現機構の解析のための基礎的研究

理学部教授 <sup>すが</sup>菅 <sup>い</sup>井 <sup>みち</sup>道 <sup>ぞう</sup>三

現在この地球上には、100万種をはるかに超える生物が生活している。これらの生物はその大きさや構造はまさに千差万別であるが、すべてDNAという、その構造が基本的には共通な分子にそれぞれの種に特有な遺伝情報が組み込まれている。

私共の研究室では、ゴマ属植物の細胞遺伝学的研究が長年続けられてきて、これまでに、放射線照射や交配等により多数の優良ゴマ品種が作りだされ、その系統が維持されてきている。これらの中には耐寒性をもつもの、病害虫に対する抵抗性を示すものなど優れた品種が多数含まれていて、その多くが中国、東南アジア、南米等を含む世界各地に分譲され栽培されている。

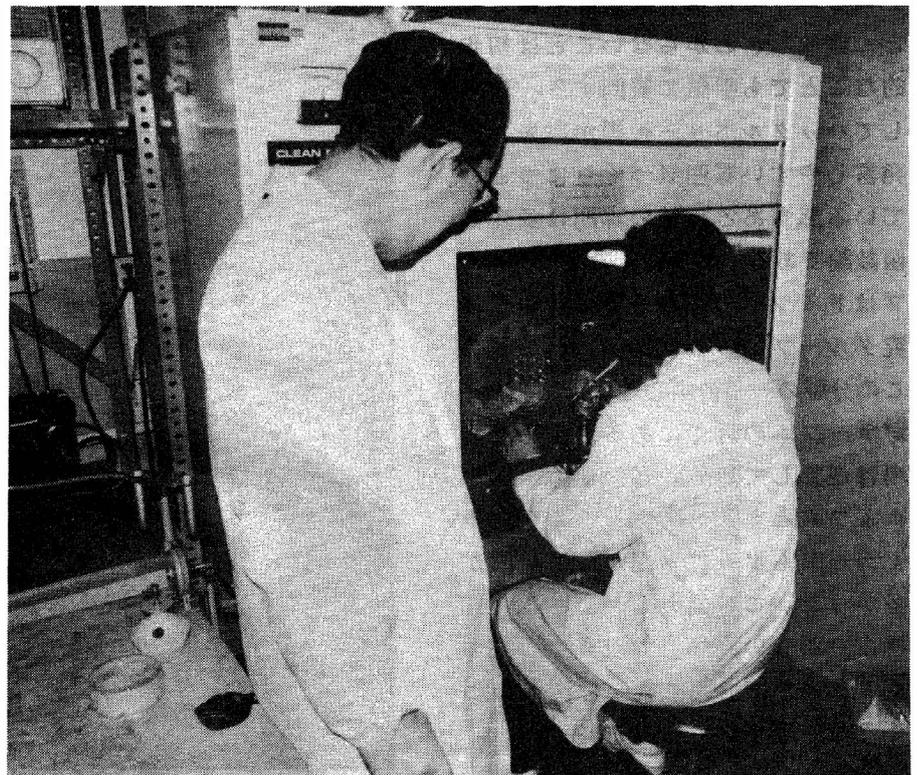
最近の人類の生活様式の変化や生産活動の増大等により、砂漠化、酸性雨やオゾンホールの問題などに見られるように地球の環境の悪化が著しくなりつつある。ゴマについても、このような地球環境の変化に対応できる、耐乾燥性、耐塩性等を備えた新しい系統をつくり出すことが、今後、重要な課題となると思われる。

新しい系統をつくり出すためには、従来の交配という方法の他に、最近、遺伝子を直接細胞に導入する技術がいくつか開発されてきている。

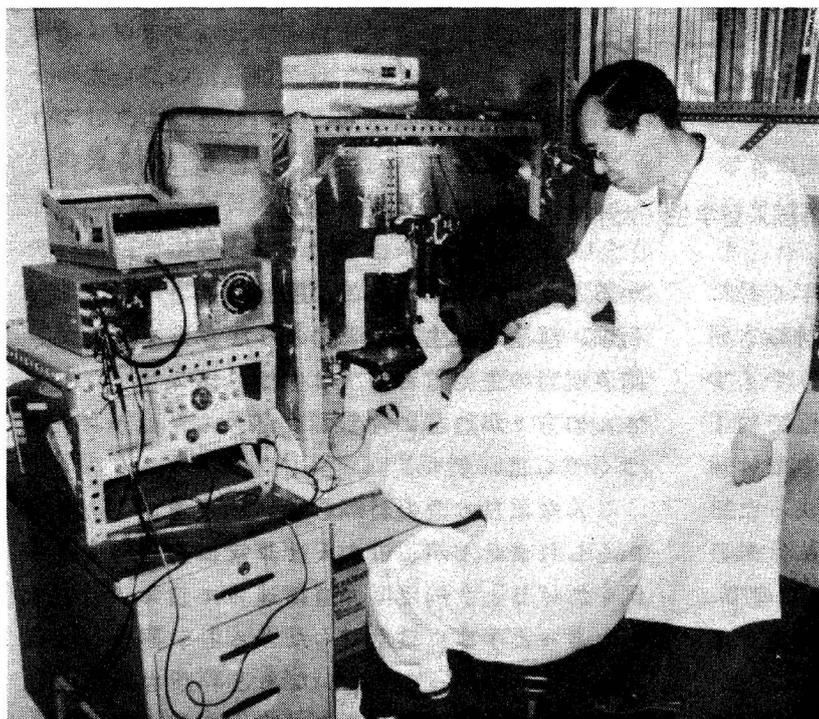
そのうちの一つは、植物細胞の細胞壁を酵素等により分解し裸の細胞であるプロトプラストをつくり、それを融合させることにより遺伝子を導

入する方法である。いま一つは遺伝子組換え技術を用いる方法である。特定のDNAを導入したアグロバクテリウムという細菌が植物に感染すると感染箇所から毛状根という根が生じ、アグロバクテリウムの遺伝子が植物に導入される。この技術を用いることにより本来は植物がもたなかった新しい遺伝子を導入することができる。今回、我々はゴマをもちいてこの形質転換系をつくることに成功した。

私どもの研究室ではゴマのほか、シダ植物の配偶体を用いて発生や分化の機構を解析する研究が長年続けられている。シダの配偶体は心臓形で、直径は数ミリメートルと、ふつうに野外で見られるシダの本体（孢子体という）と比べはるかに小型であり、高等植物の花粉と同様に1セットの染色



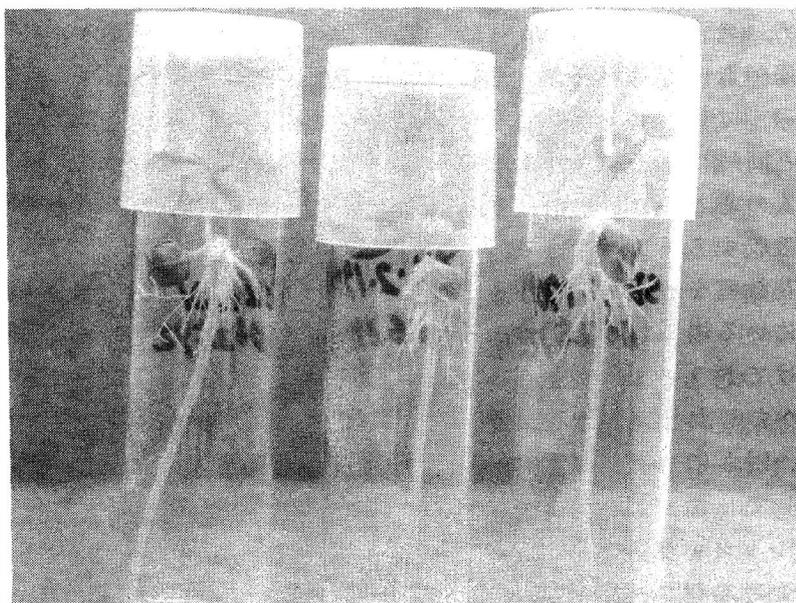
クリーンベンチを用いての毛状根の植えつぎの様子



細胞融合装置による細胞の電氣的融合実験の様子

体をもつ孢子から発生したものである。配偶体からは受精の結果2セットの染色体をもつ孢子体が現れ、それがシダの本体にまで成長し、孢子をつける。シダの孢子を突然変異誘発剤などで処理するとさまざまな突然変異体ができる。その中には例えば、耐塩性をもつもの、除草剤に対する抵抗性の強いものなども含まれている。これらの性質を示す遺伝子を、たとえば、ゴマなどの作物に導入することにより新しい性質を備えた品種を作り出すことも将来可能になるものと考えられる。そのための基礎ともなる、突然変異体の作出、プロトプラストの融合と培養等の研究がシダを用いて現在我々の研究室で進められている。

新しい形質を植物に導入することは、その結果が自然の生態系に対して影響を及ぼさないことなど、慎重な配慮が必要なことは云うまでもない。



ゴマ幼植物にアグロバクテリウムを感染させた結果生じた毛状根。



## 日本あれこれ

外国人留学生（大学院工学研究科1年） <sup>ニン</sup>任 <sup>レイ</sup>伶 <sup>レイ</sup>伶

初めまして、今年4月に入学した物質工学科杉本研究室の任です。入学して半年も経ち、ようやく少し慣れてきました。富山に来る前に名古屋で約1年を過ごしました。この2年間の生活の中で体験したと感じたことを中心に私の目に映った日本を書いてみたいと思います。ただし、私は来日の日もまだ浅く、物の見る目もまったくないので、以下の記述が独断と偏見に満ちたものであることを最初に断っておきます。

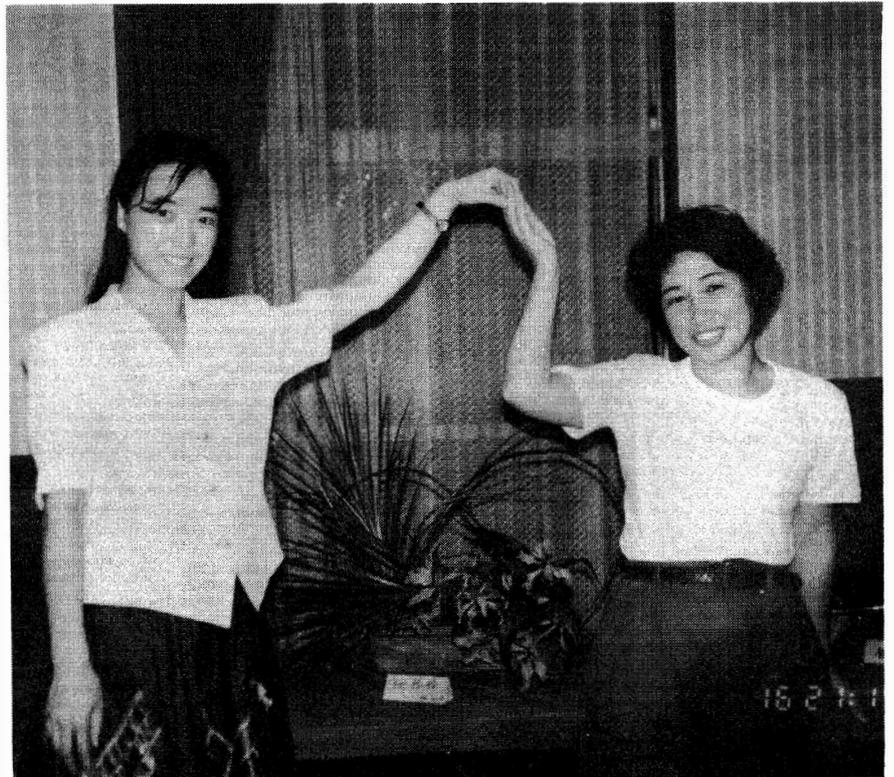
来日した日のこと、今でも鮮明に覚えています。CustomでAlienという言葉が目に入る途端、冷たい空気に包まれたようで不安でなりませんでした。迎えに来てくれた友達の間を見つけた後は少し良くなったものの、どうしてもその不安からぬける事ができませんでした。

異国での生活にまず最初におつかるのがことばのかべであることはいうまでもありません。速くことばを覚えるために名古屋大学の日本語教室や帰国者向けの日本語教室を毎日通っていました。ことばの勉強と同時にことばの基となる日本人の心と日本の文化をなるべく吸収するために週1回茶道、生花教室をも通っていました。家にいる場合はいつもテレビをつけてドラマ等を見るように努めました（ちなみに大半の場合、眠さに勝てずそのままごろ寝してしまいました）。しかし、プレッシャーが足りないせいか、センスのなさからか、なかなか上達しませんでした。やっとある程度わ

かるようになったのはごく最近のことで、これも日頃、講座の先生方と学生のみなさんをはじめ、講義担当の先生方および学生係の諸先生方等たくさんの方々が熱心に教えてくださったおかげだつくづく思います。

こんなに日本語のわからない私こそ感じたことかもしれませんが、日本人は非常に親切です。一例をあげると、例えば、道に迷って日本人に訪ねるときと丁寧な教えをくださるし、場合によってはどうもわかっていないなあ判断されると、近いところでしたらそこまで連れてくださいます。他の国に行った事はありませんが、これほど親切な国民は恐らく類を見ないでしょう。

日本には山が多く、水も非常にきれいです。加えて、四季もはっきりしていて、四季折々の風情



生花の先生といっしょに

が楽しめます。元々旅行が大好きな私がついついその大自然の誘惑に負けて海や山までに足をのばしてしまうことは何度と数える事でしょう。大自然の美しさを謳歌するには、私の筆があまりにも立たないのでそれをお任せするとし、ここでは、先日旅路で出逢った一つの出来事を記したいと思います。京都から姫路行きの電車の中で、私の隣に座った人が車掌を呼び止めて、大阪までの切符を買いたいと申し出たところ、乗車駅はよほど使われていないようで、運賃に車掌はだいぶ悩まされました。ようやく計算できて切符を渡しました。暫くして、電車が大阪駅に入ろうとするところ、車掌が慌てて走って来られました。隣の乗客は運賃が足りなかったと思ったのか財布を出そうとしたら、車掌は40円を渡して、どうも余分にもらったらしい。車掌は一礼して謝って電車を降りました。日本人の責任感と誠実さを実感させていただ

いたひとときでした。

先日、中日友好20周年の記念放送を見て、初めて中日国交樹立の経緯を知りました。終戦後何十年もの間、両国間には何の交流もなく、中国に面した日本海側も完全に日本の裏と定着してしまいました。歴史から見ても、地理から見ても、日本海側が日本の表となるはずで、今、中国は経済の発展、国民生活の改善を最重要とし、開放政策を取り、社会がまさに大きく変わろうとしています。この社会の変更期においてこそ、大量な資金と優れた技術が必須で、日本の協力は強く望まれます。一留学生、一中国人としての私を通じて、みなさんの中国に対する理解が深まれば幸いです。将来、中国経済が発展し、貿易を含め広い意味での日本との交流をさらに深め、日本海側が日本の裏でなくなる日が来るのを切に願望し、努力していきたいと思います。

## 私のドイツ留学について

教育学部小学校教員養成課程4年 <sup>たね</sup>種 <sup>ゆきこ</sup>由喜子

私は文部省の教員養成大学 - 学部派遣留学制度により平成3年9月から平成4年7月の11カ月間ドイツのルーヴヒヒスブルク教育大学に留学する機会を得ました。ルーヴヒヒスブルクは、バーデン・ヴュルテンベルク州の州都シュトゥットガルト近郊に位置しており、“花咲くバロック”と呼ばれるお城をもつ由緒ある町です。大学のすぐ後ろにはとても大きな自然公園があり、みんなの憩いの場となっています。

さて私はこのルーヴヒヒスブルク教育大学に冬学期と夏学期の2学期間通いました。開設されている講義は種類・数とも非常に多く、私はその中から自由に、自分の興味のあるものを選ぶことができました。私は小学校教員になりたいので主に小学校のダンスとか小学校の図工・音楽・体育・算数などの授業を受けていました。どの講義も理

論はもちろんのこと実地に重点を置いており、どのような教材を使ってどのように指導するのかという教授法を教わりました。これらの講義で特に印象に残っているのは、体育・音楽・図工・家庭科を一体化した合科教育がさかんだということです。そして“美”に対して敏感になる感覚を養おうとしているのです。美的なものをすぐに価値や評価をもっていくのではなく、素直に美しいと感ずる心を育てようとしているのです。

私はまた、週に一回教育実習を受けており、前期・後期にそれぞれ一度ずつ授業をする機会を得ました。前期には日本の音楽を、後期には“日本について”の授業をドイツ語でやりました。私は生まれて初めての教育実習を日本ではなくドイツでやったわけですが、授業展開を考える上でまず、言葉の問題に苦しみました。しかし、先生・学生・

子供達の協力のおかげで、とても満足のいく授業をすることができました。子供達の楽しんで喜んでいる顔を見ていると、『留学して本当によかった』とつくづく思いました。私は留学中いつも“言葉”の壁にぶつかって苦しんでいたのですが、先生方・学生達・子供達と接するごとに、人間には言葉を越えたところで気持ちが通じて、わかり合える力があるのだということを身をもって体験しました。日本語だけで用が足りる日本では考えたこともなかった“言葉”について、これほど悩み、苦しんだことも初めての体験でした。国

際化がさげばれている中、他国人とのコミュニケーションを図るためには、まず“言葉”の問題を解決せねばならないのです。真の国際化を図るためにも今こそ日本の教育制度を見直す時だと思います。ヨーロッパの学生達のほとんどが数カ国語を自由に話すことができるのには非常に驚きましたが、それは生活上必要不可欠のことなのです。

私はこの留学中多くのものを見、また感じてきたわけですが、それらをこれからの生活の中でどう生かしてゆくかが今後の課題であるといえるし、また私の楽しみの一つでもあるといえます。



現地小学校での教育実習

聴いて・見て・触れて

## — おもしろ夢大学 in TOYAMA — が開催される



世界」のコーナーは人気が高かったようです。

なお、おもしろ夢大学の「夢」は今後実用化されるものばかりであると思われるので、今後も地域企業との共同研究を積極的に進めると共に、大学と民間人との接点であるこのイベントが長く続くことを希望するという意見や、大学は何をしているのかのようなレベルなのか分からないでもっとPRしなければならない等の意見が寄せられ、大学への関心や地域社会との連携・協力の必要性の高さを感じさせられたイベントでありました。

学校週5日制施行で最初の休日となった9月12日（土）に、本学地域共同研究センターをメイン会場として「聴いて・見て・触れて—おもしろ夢大学 in TOYAMA」が開催されました。

このイベントは、地域における社会的協力・連携のあり方について検討することを目的として実施されたものです。国立大学で同日イベントを実施したのは全国的にもわずか5校と珍しく、企業関係者、地域住民及び小・中・高校生など1,000名を超える入場者で賑わいました。

各会場では、大学の研究紹介や講演だけでなく小・中学校にも楽しめるよう夢の自動車「ソーラーカー“燦燦号”」の説明や体験乗車が行われたり、ゲームやユニックスを楽しみながらワークステーションに親しみをもってもらえるようにする企画など、盛りだくさんの内容で大学を紹介しました。

また、アンケートを見ると、入場者は幼児から高齢者までと年齢層も広く、特に、今話題の「ソーラーカー」、「ワークステーション」、「極低温の



ワークステーションに目を輝かせる子供達

# 機能的多孔体の新しい製造方法を開発

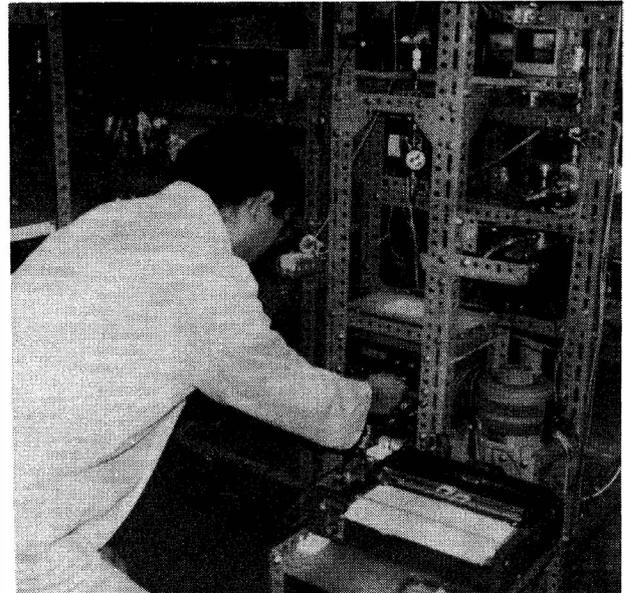
水素同位体機能研究センター教授 わたな渡 べ辺 くに国 あき昭

化石燃料の消費等による世界的規模の環境問題が叫ばれる中で、炭酸ガスを生じないクリーンエネルギー並びに新素材の開発が世界各国で活発に進められています。本学「水素同位体機能研究センター」は、水素同位体が持っている機能性に関する基礎的研究を行うとともに、その機能性を有効かつ安全に利用できる技術の研究開発を行うために平成2年6月に設置されました。

施設名の一部となっている「水素同位体」は軽水素、重水素および三重水素（「トリチウム」とも呼ばれます）の3種類を意味しますが、トリチウムは天然には殆ど存在せず、中性子とリチウムとの核反応により製造されます。これらの内、軽水素は炭酸ガスを放出しない水素エネルギーシステムの燃料、重水素やトリチウムは熱核融合反応の燃料として注目されています。但し、前者の水素エネルギーシステムに関しては、軽水素の生産、貯蔵、輸送および供給方式など、また後者に関しては、放射性のトリチウムの安全取扱技術の確立が大きな問題となっています。即ち、水素同位体を新しいエネルギー供給媒体として利用するには幾つかの基本的問題を解決しなければなりません。

その際、常温・常圧で気体の水素同位体を固体化できれば高密度化と同時に安全性が飛躍的に改善されます。水素吸蔵合金は大量の水素を常温で吸収し、加熱すると可逆的に吸蔵水素を放出する性質を持っており、水素同位体の固体化のためには極めて有望な材料です。但し、この合金は一定以上の水素を吸収すると微粉化し、粉末の飛散や熱伝導性の低下等の問題を生じます。

この微粉化の対策の一つとして、当センターでは水素が自由に入出力できるような小さな孔を持つ多孔体で予め水素貯蔵合金を取り囲んでおく方法を考えました。この際従来法では、金属またはセラミックスの一定粒径の粉末を選別し、加圧力や焼結温度を調整して焼結製品の多孔率を制御し



製造した多孔体を調べる松山助教授

ていましたが、

- 1)複雑な形状や大型の製品は製造が困難である。
  - 2)多孔体の孔径や多孔率を制御するには、加圧力を変動する方法しかない、
  - 3)多孔率が同一製品の中で変化している焼結体を製造するのは困難である、
- などの問題がありました。

当センターで開発した新しい方法は、マグネシウム粉末またはマグネシウム合金粉末を造孔剤とするものですが、原料粉末と造孔剤との比率を変化させるだけで、

- 1)気孔の形状、寸法及び分布等を変化させることが可能である、
- 2)傾斜多孔体の製造が可能である、
- 3)造孔剤の形状を制御して気孔形状を制御することが可能である、

等の特長を持っています。またこれらの特長は水素貯蔵合金の微粉化対策に有効であることが分かりました。今後は水素貯蔵合金以外にも、多孔体を必要とする種々の分野において、本法の技術が活用されるものと期待されます。

## フィルハーモニー管弦楽団



本日は、私達「富山大学フィルハーモニー管弦楽団」の紹介をさせていただきます。創立38年の伝統を守りつつ、100名余りの仲間達が和気藹々と音楽をやっており、いま読んでいる方々の中にも私達の演奏を聴きに来てくださった方が多くいらっしゃるでしょう。

それでは、私達がどのような活動をしているのかざっと紹介します。

まず、入学式・卒業式での演奏。次に、最初の大舞台となるのが、6月頃に開かれる「プロムナード・コンサート」です。これは辞書を引いて頂ければよいのですが、かたばらない演奏会をという気持ちで行っています。もうひとつの大舞台は、11月の終わり頃の「定期演奏会」で、1年間の私達の活動成果をみなさんに見て頂くための、いわば檜舞台です。年に何度か行う「地方公演」は、若年層を対象に、よりクラシックに親んでもらおうというもので、今年は6月に城端中学校へ、10月には県立盲学校へ行って演奏しました。そこで音楽に傾けられる耳は、大きな演奏会以上に真剣で、毎回私達にとってよい刺激になっています。

その他、富山県オーケストラ連盟に加盟していて、毎年秋に開かれる「県民オーケストラ」や「県芸術祭公演」に参加し、県内の他の楽団と共に

演奏をしています。

内部的には、部員の合奏能力の向上とアンサンブルを楽しむため、夏と冬に「アンサンブル大会」を開き、また、金管（含む打楽器）セクションは毎年3月頃、TUBE（富山大学プラスアンサンブルの略称）と呼ばれる独自の演奏会を開いています。今年度はそれに影響をうけ、弦楽器セクションも同じ3月に「富山大学弦楽合奏団」として弦楽曲を中心としたプログラムで独自の演奏会を予定しています。

ここで少し演奏会のお知らせを…。来る12月12日（土）に富山市公会堂で第33回定期演奏会を開きます。チャイコフスキーの交響曲第5番をメインに「白鳥の湖」などをプログラムに盛り込んでいますので、随分と親しみやすいものになっていると思います。今年はさらに、オーストリアから指揮者の先生を迎えて指導して頂く予定ですので、是非みなさんに演奏会を聴きに来て頂ければと願っています。

なお、今後も私達は学生らしくも素晴らしい音楽を奏でられるように練習を積み重ね、聴衆のみなさんと音楽を楽しんでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

# 柔道部

わが柔道部は、16名の猛者と4名の美女から成る総計20名のクラブである。顧問は、わが柔道部OBであり理学部助手の鈴木先生をお願いしている。練習は、週4回（月・水・木・土）プール横の道場で行っている。

現在の目標は打倒金沢大学であり、今年の北国大会では、団体戦トーナメント1回戦で対戦、敗北し3位に甘んじた。はっきり言って金大は強い。今夏、金大と4日間にわたり合同合宿を行ったが、金大の強さを再認識した。だが、我々にも無限の潜在能力があるはずであり、いつか必ず実現する打倒金大を信じて皆練習に励んでいる。（試合を離れば、金大は合同合宿を行った良き仲間である。）金大に勝つことは柔道部OBの宿願でもあるのだ。

話は変わるが、我が柔道部は富大が旧制高等学校時代から受け継がれており、歴史は非常に長いのである。それゆえ立派な方々も多数輩出しており、現役部員へのバックアップにはいつも感謝している。毎年7月に東京遠征を行っているが、ここでも援助をいただいていると共に、近郊在住のOBによる激励会を開いていただいている。このような恵まれた環境の中で我々は日々練習を重ね、飛躍への足掛かりは着実に整いつつある。

さて、今春柔道部は男6名女3名の新入部員を得た。この数は近年まれに見る多さである。バルセロナ五輪の「YAWARAちゃんブーム」のおかげだろうか？それとも柔道マンガの読み過ぎか？（これが柔道を本当に楽しそうに描いているのである。確かにそういう面はかなりある。だが柔道には人を投げる快感というモノもある。）

だが、今年の1回生は違う。男は黒帯が多数。女は山下や古賀にあこがれて入部して来たという立派なモノである。この1回生達は将来期待大であり、とても頼もしい後輩である。なお、我が部には白帯も数名いるので、ターザンとジェーンの集まる柔道部に興味のある方はぜひ見学に来てほしい。

ところで柔道部は酒が強いという印象があるがこれは事実である。今年の大学祭のファイヤーストームにおいて、柔道部は見事優勝した。（これには日本酒回し飲みという種目がある。）今年はその賞品として、応援団からコタツをいただいたのだが、コンパは柔道部らしいとても柔らかなものであり、無理に飲ませるといことは皆無である。楽しい飲み会と言ったところであろう。

少しは柔道部の事をおわかりいただけただしょうか。筆力不足もあったでしようが、読み終わって少しでも柔道部に興味を持ってもらえればいいなと思っています。



熱戦をくり広げる選手たち

## リーダー研修会を振りかえって

経済学部 3年 小 割 英 治

平成4年度体育系サークルリーダー研修会が、去る9月30日～10月2日の2泊3日の日程で大山町の山野スポーツセンターにおいて開催され、各サークルの次期リーダー・現リーダー・体育会役員等約70名が参加しました。今回の研修会は、体



開会式で挨拶する増田学生部長

育会クラブのあり方や問題点について検討すると共にリーダーとしての自覚を持ち、クラブ活動の活性化を促し、さらに各クラブ間の親睦を深めることを目的として行いました。

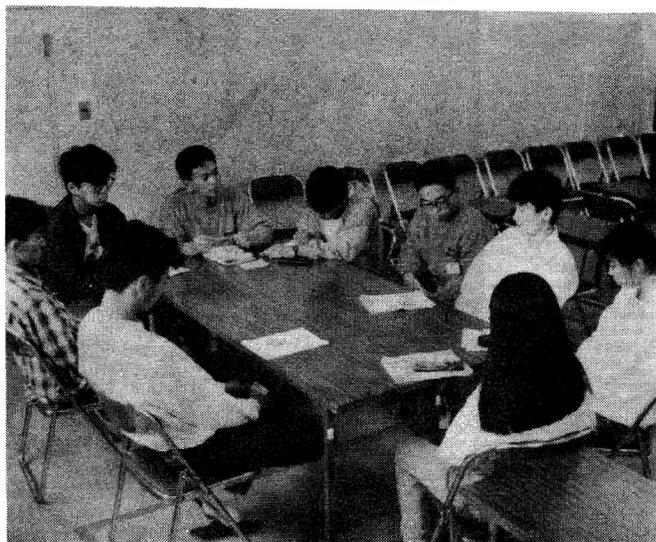
講義としては、経済学部助教授の澤野雅彦先生に「リーダー論」、教養部講師の島海清司先生に「有効なトレーニング」、富山女子短期大学教授の桑守豊美先生に「栄養学」を、実習としては教養部助教授の布村忠弘先生に「ストレッチとマッサージ」、SONY企業より山村治一先生の「テーピング」をお願いしました。これらの講義、実習は、これからクラブを運営していく私達にとって、また一スポーツマンとして、これからたいへん役立つものと思います。

分科会は、「よりよく部をまとめあげていくには」、

「クラブ強化と充実したクラブ活動」の2テーマについて八班に分かれて行いました。ここでは日頃の活動における問題点、練習への取り組み方について意見を出し合い、よりクラブを活性化させ強化していくにはどうすれば良いかを検討したことにより自分達のクラブを見つめ直す良い機会になったと思います。

また、体育会役員司会による「事故防止について」では、どのような状況の時に事故が多く発生しているかを再認識してもらうために、最近学内外で起きた重大事故を例にあげ、真剣に話し合いました。

以上の様な内容で行われた研修会ですが、ここで得たものを生かすのは参加者の皆さん次第だと思います。この場だけにとどまらず、日々の練習で考え、実行に移してってもらい、体育会クラブの発展のため頑張ってもらいたいものです。



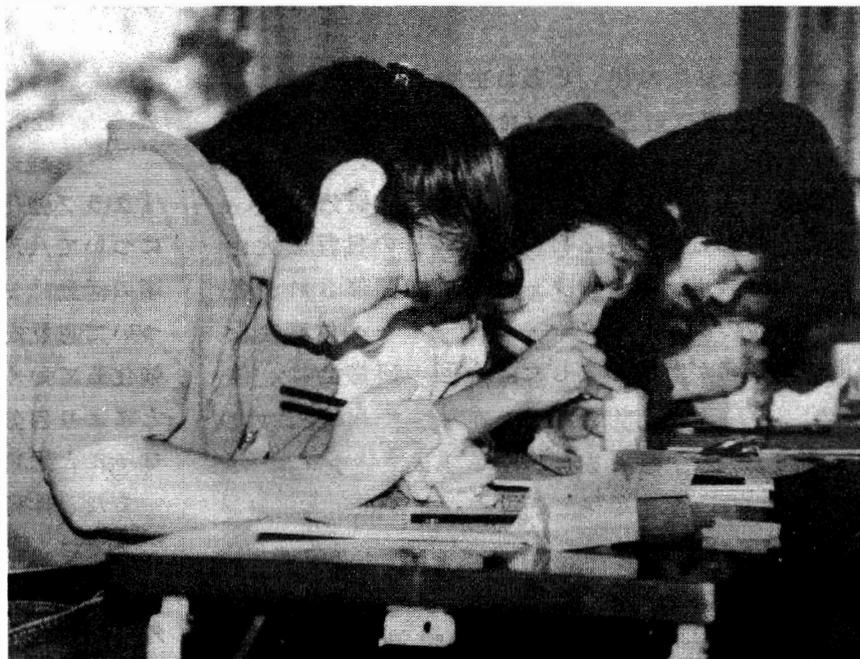
分科会で熱心に討論するリーダーたち

## 外国人留学生との見学旅行及び懇談会が実施される

毎年恒例となっている外国人留学生等と教職員と懇談会（1泊旅行）が、去る9月28日（月）から9月29日（火）の間、国立能登青年の家において実施され、中国、マレーシアほか7カ国70名の留学生等を含め85名の参加があった。

特に今回は、日本の高度化した科学技術を見学する目的で、初日には三協アルミニウム工業㈱、2日目には志賀原子力発電所建設所を見学した。留学生等は、日本の工業の高い技術力に目を見はっていた。

青年の家では、専門職員の指導のもと、てん刻（はんこ作り）に挑戦し、留学生らは、一生懸命思い思いのデザインを石に刻み込んでいた。



真剣にてん刻に取り組む留学生

また、懇談会では、学生部長のあいさつ、留学生委員の乾杯の後、留学生主体に日本の歌を歌ったり、部会委員が寸劇を披露するなど、和気あいあいのうちに親睦と交流が十分に深められた。



和気あいあいの懇談会

## 冬山登山の事故防止について

冬山登山は厳しい条件のもと、山の征服とその雄大な自然とのふれあいは登る人を魅了してやみません。特に、年末年始には多くの登山パーティが入山し活躍しております。しかし、この時期の登山は自然のもつ厳しさ、険しい山の地形、天候の急変や雪崩等の怖さを決して忘れてはなりません。毎年、痛ましく悲しい遭難事故が発生しています。知識や経験、技術を過信せず、日頃から十分な訓練を積み、冬山の特性を十分理解すると

もに優れた指導力を持つリーダーの指示に従い、万全の準備を整えて登山して下さい。

なお、登山の際は必ず登山計画書を作成し、関係者へ提出するとともに、地元警察署及び山岳警備隊の指示に従って行動して下さい。

雄大な山岳のすばらしさに憧れ、厳しい試練を乗り越えて山頂に立ち、無事に登山を終えることを願っています。

## 保健管理センターだより

### 健康増進合宿セミナー実施日程決まる！

第10回北陸地区国立5大学合同「健康増進合宿セミナー」が、次の要領で実施されます。

冬の大自然の美しさ、厳しさに触れながら、日頃思っていること感じていることなどを自由に話し合い、またスキー実習を通して新しい対人関係、新しい自己を発見するための合宿セミナーです。

参加者は、福井大学、福井医科大学、金沢大学、富山医科薬科大学、富山大学の学生です。

スキーは、初めてという初心者から上級の方、誰でも参加でき、プロ級のコーチが付きます。

今から、春休みの計画の中に入れて、友達を誘って多数参加してください。

#### ◎実施要項

1. 期 日 平成5年3月1日(月)～3月3日(水)  
2泊3日
2. 場 所 富山県上新川郡大山町原  
立山山麓極楽坂スキー場  
(やまふじ山荘)
3. 費 用 14,500円(リフト代は含みません)
4. 募集総数 約50名
5. 申 込 先 保健管理センター
6. 締め切り 平成5年2月19日(金)

#### 7. 日 程

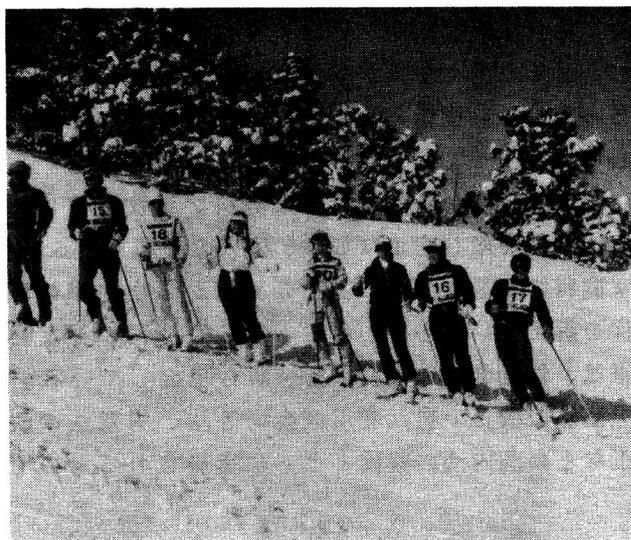
3月1日(月) 開講式 スキー講習 自由交歓

3月2日(火) 講話 スキー講習 グループトーク  
自由交歓

3月3日(水) スキー講習 or グループトーク  
反省会 閉講式

※日程は、天候等により変更することもあります。

詳細については、2月上旬に各学部、教養部に掲示いたします。



スキー講習風景

# 子供の減少に思う

富山県教育委員会総務課教育企画班長 **みやもと けい ず**

今年の元旦、小学校3年（昭和23年度）時のクラス会を開いた。卒業学年のクラス会なら卒業者名簿があるのだが、3年時のクラス会となると名簿がない。当時の写真を頼りによく案内を出すことができた。その写真には57人もの級友が写っている。こんなにも多かったのかと今更ながら驚き、改めて担任に感謝した次第である。

私はいま教育企画という仕事に携わっており、児童生徒数の推移には強い関心を持っている。明治時代は1学級の児童数は70人が目安で、100人近いこともあったようである。今は制度的には1学級40人であるが、実際はもっと少人数である。徐々に1学級当たりの児童生徒数は減少してきている。これは行き届いた教育をするためであるが、一方には人事行政における計画的教員採用との絡みもあろう。小・中学校だけでなく高校も生徒の減少が始まり、そのため大学や短大が経営方針の転換を迫られていると聞く。この減少傾向は何年頃まで続くのか、まだ底が見えないのである。

昨今の若い人達の中に、自分達の老後はもっと社会福祉が完備しているだろうから、子供がいなくても老後は心配がないと、考えている人がいる。しかしそう考える人が多ければそうはならないであろう。社会福祉というが、その社会をつくる肝心の人が少なくなるからである。

平成6年度から高校では家庭科が男女必修になる。子供を産む産まないは、個人の問題であるが、家庭科の授業で生徒に上記の観点から出生率の現状を訴えていく必要がある。この家庭科の男女必修は、性差別撤廃条約の締結から出発している。国籍法の改正や男女雇用機会均等法、労基法の改正などの国内法の整備とともに実施されるもので



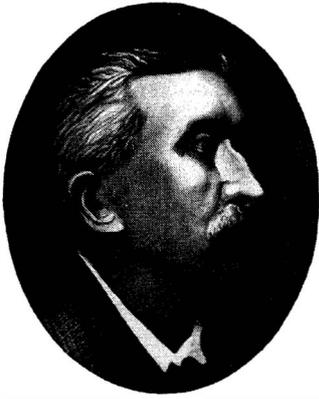
執務中の宮本氏

ある。

このような男女の平等への努力と出生率の低下とは、どんな関係があるのか。出生率の低下には、男性の無理解のほか住宅事情の貧困、女性の社会進出、子育ての不安、子供の教育費の増大などいろいろ原因が挙げられている。持ち家率日本一の富山県の出生率が低いのはなぜか、検討しなければならない。

欧州では、働く男女への手厚い育児休業制度など育児・保育政策を充実することで出生率の上がっている国もあるという。日本でも、何等かの対応が望まれる。人間という種は永遠に残すに値する種だと希望を持ちたいものである。

戦後間もない我々の時代とは違って、人々の人権に対する思いも数少ない子供に対する親の願いも変化してきている。それを踏まえて、明るく活気のある学校、そして生涯学習社会への道を模索していきたいものである。



# 「へるん文庫」縁起 1

(その生涯)

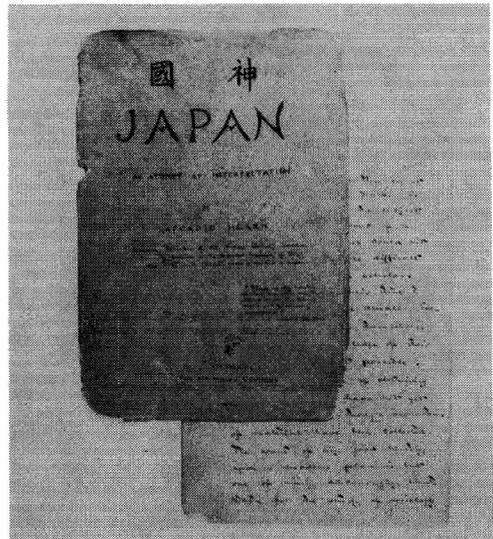
人文学部教授 平 田 純<sup>あつし</sup>

ラフカディオ・ハーン Lafcadio Hearnは1850年6月ギリシャのレフカダ島に生まれた。父はギリシャに駐留中のイギリス軍軍医チャールズ・B・ハーンであり、母ローザ・カシマティとは幾多の障害を越えて結ばれた。父は間もなく命を受けて、遠く西インドに赴任し、母と子はアイルランドの父の家へ行くことになった。ギリシャの光と晴明さの後では、アイルランドは余りにも暗く冷え冷えと感じられたに違いない。言葉は通じない。宗教も違う。夫はいない。異境の妻と混血児にとって、この環境変化の落差は余りにも大きかったろう。一旦帰国した夫は間もなくクリミアに派遣されたし、昔の恋人と再開した夫から離婚話さえでた。みごもったローザは出産のため故郷ギリシャへ帰ることになったが、それが母と4才であった子の最後の別れになって仕舞った。再婚した父が任地インドへ行ったのは、ラフカディオが7才の時、その父も後年帰国の途中、船中で病死してしまっているから、ラフカディオは幼くして母と別れ父をも失い、肉親の情愛を一身に受けて育つことがなかった。伯母に引き取られて、フランスとイギリスの宗教学校で学ぶ機会を与えられた。学校での遊技中に左目を負傷し、視力を失っている。さらに、伯母の破産で全ての支えを失い、ロンドンで零落の生活を送った後で、アメリカへと旅立つことになった。ラフカディオ、19才のときである。(ロンドンの惨めな暮しに触れた書簡がへるん文庫にある。)

1869年のアメリカは南北戦争直後で、とりわけ彼がたどり着いたシンシナティは、安定を欠いていた。どん底生活を経験した挙げ句、彼は印刷業者のワトキンという敬愛すべき理解者を見だし、そこからジャーナリストとしての生活を始めることができるようになった。文学と芸術の友人達と

の交流もあったのに、ある女性との結婚が不調に終わったことなどから、ラフカディオはシンシナティを離れてミシシッピ川を下り、ニュー・オーリンズの地に移り住んだ。クリオール(フランス・スペイン系と黒人の混血)達の住むここは彼にとっても心休まる土地であったのか、新聞記者としての仕事の他に、彼の文筆活動は盛んになり、最初の著書の刊行もあった。1884年ニュー・オーリンズで開催された万国博覧会に出品された日本・東洋関係のものに彼は関心を示し、好意の籠った記事を書いている。このとき日本政府派遣の服部一三氏と知り合っている。

文名が上がり、中央の出版者からの依頼もあって、彼は西インド諸島の紀行記を執筆することになり、十年を過ごしたニュー・オーリンズを去って旅に出た。そのルポルタージュは素晴らしい成功を見て、折から高まっていた東洋への関心を捉えようという出版社と旅行会社の企画で、彼は日本紀行記を書くことになり、1890年挿絵画家と一



ラフカディオ・ハーン手書原稿「神國日本」

緒に日本にやってきた。しかし、画家の謝礼が自分より大きいことを知ったラフカディオは契約を破棄し、服部氏と、東大教授チェンバレン氏の尽力で、松江中学に英語教師として赴任したのが、8月も終わりの頃であった。以来熊本の第五高等学校、神戸のクロニクル新聞をへて、東大・文科大学の英文学教師として日本人学生に英語・英文学を教える傍ら、欧米に日本の文物を紹介していった。明治23年は日本に帝国議会議が開かれた年であり、教育勅語が發布された年である。西欧に追いつけ追いつけの国是がようやく緒に着き始め、古い日本と新しくなろうという日本とが混在していた。ラフカディオは古くからの日本に愛着を示し、そこに日本文化の心髄を見出していた。それは彼の十数巻を数える著作となって、今もなお多くの愛読者を持っている。イギリスの作家で日本に生活したフランシス・キング氏は、日本に来て日本を愛した数ある外国人の中で、我がラフカディオ・ハーン以上に日本を愛し、深く理解した人はなかったと言っている。

1903年3月、彼はそれまで勤めた東京大学を去り（後任が夏目漱石であった）、翌1904年9月、狭心症で亡くなった。55才であった。

風光明美な地中海のギリシャのレフカダ島から北冥のアイランドのダブリン、それからフランスとイギリスの学校、大西洋を渡ってアメリカ中西部のシンシナティと南部のニュー・オーリンズ、西インド諸島、ニューヨークからカナダ大陸横断し、更に太平洋を渡って日本へと渡来した、と言



ヘルン文庫入口の額

うことは殆ど地球の半分以上を旅する放浪の生活だったと言える。安住の地、心の故里を求めてのさすらいの果ての到着点が日本であった。父母、肉親に愛された記憶を殆ど持たず、幼いときからのコンプレックスに悩んで来たラフカディオが日本と日本人の中に安らぎを見いだしたというのも、彼自身言っていた彼の身体に流れている東洋の血のせいなのだろうか？

世界の各地にハーンのファンがいる。殆どが彼の日本ものの愛読者である。ドイツではホフマンスタールとステファン・ツヴァイクがすっかり虜になっている。魅せられたツヴァイクは日本関係のハーンの世界に就いて「芸術の世界で全く特異なもの、移植、人工移植の奇蹟である。西欧人の著作であるのに、筆者は東洋人だ」と言っている。ヘンリー・ミラーは、「日本への私の情熱はラフカディオ・ハーンで始まった」と言う。

## ▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▼▲▽▲▽

学生部長	増田信彦
人文学部	中村雅之
〃	岩井瑞枝
教育学部	呉羽長
〃	原田嘉昭
経済学部	伊藤格夫
〃	長谷川隆

理学部	広岡公夫
〃	鳴橋直弘
工学部	女川博義
〃	長谷川淳
教養部	高安和子
〃	山本孝一